



公立大学法人

山形県立保健医療大学

Yamagata Prefectural University of Health Sciences

山形で 輝く 先輩たち

Seniors shining
in
Yamagata

次世代へ繋ぐキャリアの地図



目次

●看護学科

平成15年度	看護学科卒業	山形県立保健医療大学 准教授 今野 浩之さん	1
平成15年度	看護学科卒業	山形県立中央病院 看護主査 大江 祐介さん	3
平成15年度	看護学科卒業	山形県立中央病院 看護主査 奥山 広也さん	4
平成19年度	看護学科卒業	ナーシングドゥーラ®カモミール 代表 渡辺 比呂子さん	5
平成24年度	看護学科卒業	鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センターくしびき 保健師 伊藤 繭子さん	6
平成26年度	看護学科卒業	山形大学医学部附属病院 助産師 橋本 里奈さん	7
平成26年度	看護学科卒業	山形県立中央病院 看護師 今野 紗穂さん	8
平成29年度	看護学科卒業	山形県立新庄病院 助産師(兼)看護師 長沼 早紀さん	9
平成30年度	看護学科卒業	白鷹町役場健康福祉課 保健師 横山 駿さん	10
令和3年度	看護学科卒業	山形市立山寺小中学校 養護教諭 小松 初音さん	11

●理学療法学科

平成18年度	理学療法学科卒業	天童市民病院 リハビリテーション科主査 阿部 志保さん	12
平成22年度	理学療法学科卒業	山形県立新庄病院 主任理学療法士 黒坂 浩平さん	13

(県外で活躍する先輩たち)

平成15年度	理学療法学科卒業	京都大学(京都府) 教授 山口 智史さん	14
平成18年度	理学療法学科卒業	信州大学(長野県) 准教授 小宅 一彰さん	15

●作業療法学科・作業療法学分野

平成21年度	作業療法学科卒業	おやま整形外科クリニック 作業療法士 川田 智尋さん	16
平成17年度	作業療法学科卒業	山形県立保健医療大学 教授 外川 佑さん	17
平成21年度	作業療法学科卒業		
平成23年度	大学院博士前期課程作業療法学分野 修了	山形県立保健医療大学 教授 仁藤 充洋さん	19

(県外で活躍する先輩たち)

平成31年度	大学院博士後期課程作業療法学分野 修了	四條畷学園大学(大阪府) 教授 花田 恵介さん	21
--------	---------------------	----------------------------	----



「山形で輝く先輩たち： 次世代へ繋ぐキャリアの地図」の発刊にあたって

本学では、地域医療体制の充実を目指し、卒業生の山形県内定着に向けた取り組みを進めております。今年度は新たな試みとして、在学生や大学進学を目指す高校生の皆さんが将来のキャリア形成を考えるきっかけになるための冊子を発刊しました。

本冊子は、県内で活躍する先輩方の経験やターニングポイントを通じて、在学生が自身のキャリアを長期的な視点で考えるきっかけとなることを目指しています。本学の卒業生は、県内の病院や施設だけでなく、行政や教育などさまざまな分野で活躍しており、中には、働きながら大学院を修了した方、山形県を一度離れた後にUターン就職をした方、自ら開業し活躍している方がいます。

こうした卒業生の皆様にご協力いただき、就職を決めた理由や、そこで働くことの魅力について伺っています。

在学生の皆さんには、卒業生からの声を通じて、「県内で理想のキャリアを築くことができる」「県内だからこそ感じられる魅力がある」という可能性を感じていただきたいと思います。また、大学進学を目指す高校生の皆さんにも、県内での医療や教育分野でのキャリアの魅力を知っていただければ幸いです。

さらに、本学の卒業生の中には、県内のみならず全国で活躍する方も多くいらっしゃいます。今回の冊子では、そうした先輩方からのメッセージも掲載しておりますので、ぜひ参考にし、今後のキャリア形成に役立ててください。

令和7年3月 山形県立保健医療大学
学生支援委員長





平成15年度 看護学科卒業

今野 浩之さん

山形県立保健医療大学 准教授

〔経歴〕

平成16年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
 平成16年4月 一関市（保健師）入職
 平成21年4月～ 山形県立保健医療大学看護学科 教員（助教）
 平成21年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 入学
 平成23年3月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 修了
 平成27年4月 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻
 博士後期課程 入学
 令和3年9月 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻
 博士後期課程 修了
 令和5年4月～ 助教、講師を経て看護学科准教授（地域看護学）

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

出身は岩手県で大学卒業後は地元に戻り市町村保健師として働いていました。

当時の主な業務は精神保健を担当しておりましたが、保健師の活動方法として地区担当制も併用していたため、母子保健では乳幼児健診や新生児家庭訪問、地域サロンで高齢者の方々への健康相談、生活習慣病予防の特定保健指導など、地域の方々と直接的に関わる様々な経験をさせて頂きました。

現在の職場で勤務するようになったのは、30歳を目前にした時、大学時代の友人から（本学の）教員募集の情報を聞いたのがきっかけです。現場での仕事に魅力を感じていたからこそ、保健師として仕事をする上で抱くようになった疑問を何らかのかたちで探究したいと思い決断しました。

山形は大学時代の4年間を過ごした土地ではありませんでしたが、数ヵ月後には第一子が生まれるという状況もあり、不安がありました。私にとっても家族にとっても大きな決断であり転機となりました。

山形で就職するメリット

縁があって再び訪れた山形ではありますが、学生時代も含めるともう少しで人生の半分を山形で過ごすことになります。子どもたち2人（長男・次男）は山形で生まれ育っています。私自身、四季折々を感じられる食文化豊かな山形を第二の地元と捉え、生活しています。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

山形県内の保健所や市町村が保健師実習のフィールドになっています。学生の実習カンファレンスで県内の自治体を周りますが、かつての卒業生が実習指導者となって学生指導に関わってくれることは本当に素晴らしいと感じています。

また、先ごろ、以前保健師として働いていた自治体の方から十数年ぶりにお声がけ頂き、精神保健に関する勉強会で講演をさせて頂く機会を頂きました。緊張の中に、懐かしさと照れくささを織り交ぜた何とも言えない心境の中、先方への恩返しというにはほど遠いものではありませんでしたが、自分自身の出発点を改めて実感できる貴重な機会となりました。

仕事に当たる上で大切にしていること

“一方聞いて沙汰するな”仕事上での多くの人との関わりや研究的な視点において、先入観に左右されずに、何事にもフラットな気持ちで向き合うことを心がけています。人や物事に対する自分自身の捉え方を意識的に変化させることで新たな境地が見えてくることがあります。

自分自身の心の健康を保つために息抜きも大切です！休みの日はキャンプに行ったり、庭のバラや季節の花々を愛でたり、人懐っこく悪戯好きな我が家のネコと戯れたり……。仕事に追われ気持ちが焦り落ち着かない時ほど、心身のバランスを保つ心の舵取りとその対処が大切だと感じています。

現在の仕事について

地域看護学領域の教員として講義や演習、実習地との調整や学生への実習指導など、主に保健師教育に関する内容を担当しています。

また、一般の方々を対象とした看護に関する講習会、山形県内の自治体の調査データの分析、学会の査読委員、看護協会や看護学校の講師など、学内外問わず、学生の皆さんからは見えにくい仕事もいくつか請け負っています。

大学院では大学院生への研究指導に携わっています。本学では、保健師として勤務しながら大学院に通う社会人の方々も多くいます。現場での課題を研究疑問として研究によって明らかにすることを目指す大学院生の方々と、試行錯誤しながら一緒に考え続けています。

自身の研究テーマとしては、保健師活動の中で、病気や障がいの有無に関わらず、地域の中でその人らしい生活を安心して営み続けられるような支援について探究しています。



学生時代にやっておくべきこと

学生時代は多くの出会いの中で、多様な価値観に触れることができた大切な時期だったように思います。自分自身と向き合い、これからの生き方を模索していた時間が非常に多かったように感じています。

4年間はあっという間です。たくさん考え、思い切って行動してみてください。失敗して時には落ち込むこともあるかもしれませんが、それでもいつか自分自身の糧となるはずです。

在学生に向けたメッセージ

私自身、20歳のころに思い描いていた未来とは全く異なる今を過ごしています。

自分の意思とは無関係に、数多くのめぐり合わせが現在の自分に繋がっていると感じています。意図するしないに関わらず、どのような境遇の中でもそれをチャンスと捉え、足跡を残せるかどうかは自分次第だと実感しています。

他の誰かの評価ではなく、皆さん自信が納得できる足跡を残せるよう、日々過ごしてください。





平成15年度 看護学科卒業

大江 祐介さん

山形県立中央病院 勤務
精神看護専門看護師

〔経歴〕

平成16年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
 平成16年4月 国立国際医療センター 入職
 平成21年4月 山形県立中央病院 入職
 平成31年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 入学
 令和4年3月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 修了
 令和6年5月 日本保健医療社会学会奨励賞（園田賞）受賞

現在の仕事について

HCU病棟に所属し、主任看護師として病棟勤務を行っています。

また、精神看護専門看護師として、週2回の専門活動日に病院内で横断的な活動を行っています。

内容としては、医師と共にコンサルテーションへの対応を行ったり、倫理問題を含む多職種カンファレンスに参加したり、緩和ケアチームなどと協働したり、職員のメンタルヘルスに関わる面談を行ったりしています。



大学の同級生で
同じ県立中央病院の奥山さんと

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

地元が山形であり、将来的には山形の総合病院で働きたいと考えていました。一度は東京で働いてみたいという夢があり、卒業後は東京の病院に就職しました。しかし、地元で恩返しをしたいという思いが強かったため、東京での勤務経験を経て、学んだ事を活かすために山形に戻ってきました。

山形での就職を決める際には、先輩や大学の先生方の意見を参考にしながら、自分が学んできたことを一番生かせると考える病院を選択しました。

山形で就職するメリット

山形の病院は、比較的幅広い年代の看護師が勤務しており、それぞれの多様性を受け入れながら多角的な視点で日々の看護援助にも繋げることができると思います。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

県立中央病院で勤務しながら、現在の主な活動である精神看護専門看護師の資格を取得することを後押ししてもらったことです。大学院就学から卒業までの間、勤務の調整や休みの取得を促して頂き、学業にも専念できる環境を与えて頂いた事には大変感謝しています。

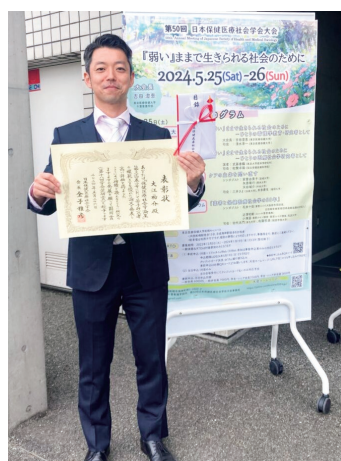
仕事に当たる上で大切にしていること

さまざまな想いや葛藤を抱えながら病いと共に人生を生き抜こうとしている患者さんの言葉や、言葉にならない心の声をくみ取することを意識した援助を行う事です。また、援助関係の中で、患者さんにとって心地よいと思われるような関係・害にならないような関係性の構築を意識しています。

在学生に向けたメッセージ

大学生活は色々なことにチャレンジできる貴重な時期です。失敗も含め、多くの経験と学びを積み重ね、それらを活かしながらぜひ山形で一緒に働きましょう！

協働できることを楽しみにしています！



大江さんは、日本保健医療社会学会第18回奨励賞（園田賞）を受賞しました。園田賞は、優れた論文を発表し、高い評価を得た若手研究者に授与される賞です。大江さんは、前期課程の課題研究として、入退院を繰り返す慢性心不全患者を対象にインタビューを実施し、心不全とともに生きる経験について明らかにしました。

写真は、大江さんが2024年5月25日、26日に開催された日本保健医療社会学会総会・園田賞授賞式に出席した時のもの。

平成15年度 看護学科卒業

奥山 広也さん

山形県立中央病院 勤務
クリティカルケア認定看護師

〔経歴〕

平成16年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
平成16年4月 日本医科大学付属病院高度救命救急センター 入職
平成20年4月 山形県立中央病院 CCU/SCU 入職
平成25年8月 集中ケア認定看護師資格 取得
平成30年3月 特定行為研修修了（6区分13行為）
平成31年6月 クリティカルケア認定看護師 名称更新
集中治療部所属で横断的に活動開始

現在の仕事について

ICUに在籍しており、クリティカルケア認定看護師として集中治療部の医師と一緒にICU、CCU/SCU、HCUといった集中治療室だけでなく、一般病棟に対して横断的な関わりをしています。一人の患者さんを受け持つのではなく、コンサルテーションを受けた患者さんに対して介入しているため、毎日10～15人の患者さんに看護を提供しています。

スタッフやコメディカルからの相談が多く、呼吸や循環動態が不安定な患者さんが早く退院できるよう支援しています。



大学の同級生で同じ県立中央病院の大江さんと

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

生まれも育ちも山形であり、自分の住む県で自分の能力を活かしたいと思っていました。社会人一年目は、東京の日本医科大学付属病院の高度救命救急センターに入職しましたが、あくまでも山形で看護師人生を送ることを前提に、救急医療の最先端を学ぶ目的で日本医科大学へ就職することを決めました。

山形で就職するメリット

自分の親や友人も近くにおり、自然豊かで人柄のいい県民性がとても好きなので住みやすいです。山形の食べ物もおいしいし、海や山にキャンプに行けるので、アウトドアが好きな自分としては最高です。

東京に就職していえることは、山形の看護が東京に劣っているものではなく、むしろ素晴らしい看護を提供していると感じたこと。今はオンラインで全国どこでもつながれるので、昔のような地の利の悪さを感じる事が少なくなりました。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

集中ケア認定看護師という資格を取り、全国にたくさんの同期や知り合いが増えたことです。これまで出会ってきた人たちと一緒に仕事をする機会が非常に増え、縁が縁を呼び、さらに学びの場が増えています。病院の内外で得た知識やスキルは目の前の患者さんやスタッフに還元できるので、大変な時もありますがやりがいがありますね。

仕事に当たる上で大切にしていること

「Pride & Respect」です。「Pride」とは、驕り高ぶることではありません。チーム医療を行うにあたり、他職種から看護的視点でアドバイスを求められた時に、いつでも自分の専門性を発揮できるように準備をしておくことが大事です。自分の仕事に誇りをもって学び続けられる姿勢を持ち続けること、これが「Pride」ということです。そして、「Respect」です。医療を提供するにあたり、現場にはたくさんの職種の方々がいます。医療に携る全ての職種の方々に敬意を払い、互いに専門性を出し合いながら患者さんをサポートしていくことで最大効果の医療を提供できるのではないかと思います。この「Pride & Respect」の精神をもち、誰でも気持ちよく対話ができるようなコミュニケーションを大切にしています。

在学生に向けたメッセージ

皆さんが大学で経験してくるすべてのこと（勉強や部活だけでなく、遊びや恋愛、バイトなども含め）は看護をするうえで大切な経験につながってきます。無駄なものは何一つないと思っています。新しいことにもどんどんチャレンジしてみましょう！そのような時間が取れるのも今だけかもしれません。一つ一つの経験やその時に感じた感情を大切に、人間力のある素敵な皆さんになってください。

山形県立中央病院で皆さんと一緒に仕事ができるのを楽しみに待っています！



平成19年度 看護学科卒業

渡辺 比呂子 さん

ナーシングドゥーラ®カモミール 代表
保健師

〔経歴〕

平成20年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
 平成20年4月 公立置賜総合病院産婦人科病棟 勤務（看護師）
 平成24年12月 HCU
 平成26年4月～平成31年3月
 長井市役所（保健師）
 令和2年6月 カモミール開業
 令和3年2月 長井市ビジネスチャレンジコンテスト最優秀賞受賞

現在の仕事について

サービス業として、産前産後のケアサポートを行っています。調理や掃除の他、赤ちゃんや家族のケア、育児中の悩み事について一緒に考えていきます。

その他、訪問看護ステーションや、地域の乳幼児健診でも働いています。

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

不規則勤務に慣れるためには、住み慣れた場所で生活を始めたいと考えました。地元だったので生活の基盤が整っていることはもちろんですが、方言まじりの言葉で、心の機微を表したり受け取ったりすることができることは、結果的に心の安定にもつながりました。

山形で就職するメリット

病院と地域がどう連携し、協働しているかがよく見えます。土地勘があるので退院後の生活もイメージしやすいし、充実していることや足りないことも見えてきます。足りないものを何とかしようと目標ができた時に、助けてくれる人がそばにいます。医療職だけでなく、多方面から手を差し伸べてくれる風土が、山形にはあると感じます。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

苦しい気持ちで育児をするお母さんたちを見ていて、なにかできることはないかと考えていた時に、ナーシングドゥーラ®という人たちを見つけました。職場から離れることに、若干の不安はありましたが、それ以上に楽しみの方が大きかったです。また、総合病院である程度の経験を積むことができたので、今は訪問看護で生かすことができます。どちらも、在宅でのケア、家族看護という意味で共通の面白さがあります。

仕事に当たる上で大切にしていること

現在は自営業なので、家庭と仕事のバランスを調整して働いています。子育て中は思いがけない出来事が頻発するので、嫁ぎ先の両親の力は絶大です。そして学校行事や地域の活動も楽しみたいと思っています。だからこそ、仕事中は頼まれたことを確実に、そしてそれ以上に喜んでもらえる+αを付け加えることを大切にしています。

在学生に向けたメッセージ

虫の目、鳥の目、魚の目と言われるように、いろんな視点から物事や流れをとらえることは、どこで働いていても可能です。山形なら山形の良さが見えます。これから就職して始まる未来が、彩り豊かなものでありますように。目の前のことだけでなく、数年後のちょっと未来のために頑張ってみてください。



平成24年度 看護学科卒業

伊藤 繭子さん

社会福祉法人
鶴岡市社会福祉協議会地域包括支援センターくしびき 勤務
保健師

〔経歴〕

平成25年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
平成25年4月 地方独立行政法人山形県酒田市病院機構
日本海総合病院神経内科病棟 勤務
平成27年4月 医療法人鉄蕉会亀田総合病院脳神経内科病棟 勤務
平成29年7月 医療法人鉄蕉会亀田クリニック 外来勤務
令和4年4月 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会
地域包括支援センターくしびき 勤務
(令和6年～育休中)

現在の仕事について

地域包括支援センターの保健師として働いています。主に介護に関する総合相談業務です。介護職はもちろん、地域の医療機関との連携も必要で、これまでの病院勤務の経験や医療・介護双方の視点が活かされる仕事だと感じています。地域に出向き介護予防体操や講座を通して、住民の皆さんのウェルビーイングに繋がるような関わりを意識しています。

また、仕事ではありませんが、一般社団法人みどりまち文庫の会員と共に、コミュニティナースとして「つるおか暮らしの保健室」を開催しています。



つるおか暮らしの保健室の様子

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

結婚に伴い一度県外就職をしていますが、Uターンを考えたのは子育て環境と自分のやりたいことを実現するためのイメージが持てるか、という事でした。

山形で仕事をしながら、やりたいことを叶えて暮らす、自分にとってのロールモデルとなる人達と出会えた事がきっかけです。

山形で就職するメリット

メリットとしては、「チャンスがあること」だと思います。これは、私のロールモデルであり「ナリワイ」をもち地域で活躍する方が話していた言葉でもあります。都会の方が選択肢も多いかもしれませんが、視点を変えれば自分の強みや出来ることを活かしてオンリーワンになれるチャンスがあると思います。

県民性なのか、我慢強くあまり自己主張しないという一面もありますが、地域やこれからの未来に熱い思いを持つ人たちもいます。多様性を受け入れ、挑戦したいことがある人達を応援し合える風土になればいいなと思います。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

外来で勤務している時に、身近に頼れる人がいないため入院を相談されてきた独居高齢者の方との関わりと、出産後に私自身が孤立感を抱いた経験です。県外就職で地域との関わりも無い中、子育て中に出会った方々が声をかけてくれ、地域コミュニティの互助の関係の中で救われました。そんな中で「コミュニティナース」を知り、私と同じように地域で孤立する人達が安心できる居

場所として暮らしの保健室をつくりたいと思うようになりました。

また、病院で治すことも大切ですが、社会的健康の部分、つながりづくりや日々の暮らしに寄り添う関わりがしたいと思い、病院から出て地域で働く看護職へ転職しました。

仕事に当たる上で大切にしていること

今は子育て中でもあり働き方は考慮しましたが、仕事のやりがい大切にしています。今の職では「年だから…病気があるから…」といった理由でやりたい事をあきらめることなく、住み慣れた地域で生きがいをもって暮らしていくための支援をしたいと考えています。

在学生に向けたメッセージ

興味関心を持ったことに、小さなところから関わりをもってみる。スモールステップでやってみると、見え方が変わり、楽しみやワクワクすることがみつかるかもしれません。

私自身、やりたい事が分からず、モヤモヤした日々を過ごしてきました。結婚・子育てなどライフステージの変化のたびにこれまでのキャリアを振り返り、その中で学生時代の経験が影響している事に気付きました。特に、講義の中で暮らしの保健室を立ち上げた秋山正子先生の活動を知った事、当時山形大学で開催されていた「やまがた在宅ケアかんごねっと」に参加する機会を頂いたこと等です。

今に繋がる様々な学びやご縁にとっても感謝しております。色々挑戦する中で、得意なことや好きなことを見つけて活かし、これからは焦らずに納得できる道を歩いていってほしいと思います。

平成26年度 看護学科卒業

橋本 里奈さん

山形大学医学部附属病院 勤務
助産師

〔経歴〕

平成27年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
 平成27年4月 山形大学医学部附属病院 入職
 平成31年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 入学
 令和4年3月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
 看護学分野 修了

現在の仕事について

産婦人科病棟で切迫早産の妊婦さんや様々な合併症のあるハイリスクの産婦さんの分娩助産や産褥期の看護を行っています。またNICUが併設されているのでトリソミーや心疾患などの胎児疾患のある産婦さんの分娩助産も行います。

婦人科では周術期の看護や化学療法、放射線治療の看護も行います。



山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

母はハイリスク妊婦でしたが、無事に分娩となりました。助産師さんの手厚い身体的精神的ケアがあり安心して出産することができたそうです。私の誕生日が来るたびに、とてもありがたいことだったと話をします。私たち母子が山形の病院で無事に出産させていただいたことに感謝の心を持ちながら、今度は私が山形で助産師の仕事をしたいと思ったからです。

山形で就職するメリット

社会人となり仕事に対する責任がありますが、自分の生活もあります。

仕事と生活の両立において、住み慣れた山形は安心感があり、仕事に集中できるということに繋がります。困ったことがあっても親や友人が近くにいることで心強いです。

勤務先には大学の先輩・後輩もおり、アドバイスを受れたり疑問がある時はすぐに解決することができます。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

不妊治療を続け流産を繰り返し悲しむ友人の相談を受けていました。その友人が辛さを乗り越えて妊娠・出産した際に助産師として分娩助産し、児の誕生を見届けました。自分の手で友人のお子さんをとりあげたことが特に印象に残っています。

またこの経験が大学院への進学と自身の研究に活かされたと思います。

仕事に当たる上で大切にしていること

どのような状況になっても冷静に最善を尽くすことです。

そのために健康管理と日々勉強し続ける助産師、看護師であることを心がけています。

在学生に向けたメッセージ

山形は人の心が温かい土地柄です。

その山形で身につけていく看護の技術、知識、経験、さらに自身の人間性やプライベートも含めて、自分自身の生き方を磨き成長していくことができます。

毎日の講義や様々な実習は必ず自分の力となります。謙虚で素直な心を持ち、常に努力できる人になってほしいと思います。

ぜひ山形で助産師、看護師として共に頑張りましょう。



ミュージカル好きの橋本さん
 写真はエリザベットの
 華麗な衣装に扮した橋本さん

平成26年度 看護学科卒業

今野 紗穂さん

山形県立中央病院 勤務
看護師

〔経歴〕

平成27年 3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
平成27年 4月 山形済生病院 入職
平成31年 4月 山形県立河北病院 入職
令和 3年 4月 山形県立中央病院 勤務

現在の仕事について

県立中央病院の脳外科・脳神経内科病棟で働いています。入院中の患者さんは、疾患の後遺症により、日常生活に多くの介助を必要とする場合がほとんどです。点滴や検査・処置などの業務はもちろんです。清潔ケアや食事介助・排泄介助などの日常生活援助を行う場面も多いです。また、意識障害・言語障害のある患者さんの思いを“くみとる”ことができるよう医師やリハビリスタッフを含めたチームで考えています。また、臨床指導委員として実習指導を行っています。自分が学生の頃「こんな指導を受けたかった」と思っていたことを指導者側として学生に還元できるように努めています。学生の細やかな気づきや患者さんへの思いやりを目の当たりにして、自分も学びを得ています。



山形県内に就職した理由と 就職を決める際に考えたこと 山形で就職するメリット

生まれ育った地で就職することによって、就職という大きな環境の変化によるストレスを最小限にでき、より自身の看護師としての成長につながるのではないかと考えるに至りました。また、将来的に結婚・妊娠・出産・子育てをしたいと思った時、理解とサポートがあり、安心してそれらに臨むことができるのは地元であると思えたからです。実際に娘を妊娠した際は里帰りをし、ゆったりとした気持ちで産後を過ごすことができました。夫も同病院で看護師をしており、(夫も保健医療大の卒業生です。)部署は違いますが、それぞれの仕事に関して情報交換したり、お互いの仕事についての相談をしあったりすることもできています。娘も5歳になりましたが、夜勤の免除制度も活用してもらいながら、夫婦で協力して子育てができています。私の実家も夫の実家ともに県内なので、こまめに祖父母や曾祖父母にも会わせてあげることができています。

これまでのキャリアの中で 印象に残っていること

一つの出来事というとは難しいですが、卒業して9年がたち、たくさんの患者さんとの出会い、同僚たちとの出会いと経験を通して、看護師はコミュニケーションが要であると思うことが増えたと感じます。就職後数年はとにかくたくさんの技術を経験して、たくさんの診療科を経験することが重要だと思っていました。ところが、結婚・出産を経て復帰した頃から、きっかけははっきりしませんが、「患者さんと話すのって楽しいなあ」と思うようになりました。育休中人と話す機会が少なかった反動かもしれませんが、現在の所属となつてからは、言語

障害があり会話が難しい患者さんにも接する機会が増え、より一層コミュニケーションの難しさと大切さを感じるようになりました。

仕事に当たる上で大切にしていること

同僚と患者さんへの誠意と敬意を忘れないこと。これに尽きると思います。

入院されている方々は自分よりも年上であることがほとんどです。自分よりも人生経験のある方に対して、侵襲の強い行為や時には羞恥のある部分のケアを行わなければならないこともあります。その際に誠意と敬意を持った対応を“させていただく”という思いを持ち続けることが何よりも大切だと思います。誠意と敬意が無ければ丁寧な対応はできません。それと同じく、ともに働く看護師はもちろんのこと、医師やリハビリスタッフ、薬剤師やその他のスタッフにも同様に誠意と敬意を持つことで、“チーム医療”として患者さんへ向き合うことができると思います。

在学生に向けたメッセージ

まず、近年のコロナ禍を経て、看護の道を目指し保健医療大で学ぶ皆さんに心から尊敬の意を表します。患者さんの生命を相手とし、繊細な技術が必要とする業務や、患者さんだけでなくその家族とも密接に関わることが多い看護師の仕事は、難しくもありますが、大きなやりがいを感じることができる職業でもあります。その道を目指した自分に誇りと自信をもって、就職先の決定・国家試験の合格に向かって邁進していただけたらと思います。皆さんのなかのどなたかと、ともに県立病院で働ける日を楽しみにしています。看護の道を目指すにあたり、背中を押してくれた家族の方や、日々共に学んでくれている友人たちへの感謝の気持ちを忘れずに。



平成29年度 看護学科卒業

長沼 早紀さん

山形県立新庄病院 勤務
助産師

〔経歴〕

平成30年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業

平成30年4月 山形県立新庄病院 入職

2病棟（産婦人科と内科の混合病棟）に勤務

令和4年11月～令和6年4月

産休・育休取得

令和6年5月 職場復帰し、産婦人科外来配属

現在の仕事について

助産師として産婦人科外来に勤務しています。主な仕事内容は医師の診察介助や問診、妊婦への保健指導や褥婦への乳房ケア等です。

妊婦健診や不妊治療、子宮がん検診やがんの化学療法など様々な目的を持った方が受診するため、その人それぞれの希望に沿った対応をできるように心がけています。



山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

生まれ育った地元であり、家族や友人が近くにいる山形県でこれからは生活していきたいという気持ちが大きかったため県内に就職しました。その中でも県立病院への就職を決めた理由としては、地域の基幹的・中核的なそれぞれ特色のある病院でやりがいのある看護ができると考えたこと、福利厚生が充実しており妊娠出産などの生活の変化があっても働き続けやすいと感じたことが挙げられます。

山形で就職するメリット

自身の妊娠出産を経て、周りに頼れる人がいることのありがたさを実感しています。私は今年育休から復帰したのですが、保育園での生活が始まったから子供がよく体調を崩すようになりました。子供から風邪をもらい自分が体調を崩すこともあり、誰かの手を借りたいと思うことも増えました。仕事と子育ての両立は思った以上に大変で近くに家族がいることが心の支えになっています。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

出産に関わらせていただいた方が次のお子さんを妊娠して受診されたときに、あの時はお世話になりましたと声をかけてくださることが何度ありました。出産は一生に数回の出来事で強く印象に残ることなのだとことを実感し、特別な機会に関わらせていただくことへの身が引き締まる思いをしました。

仕事に当たる上で大切にしていること

自分の価値観を押し付けないように接することです。周産期に関わることで多く妊婦や褥婦の精神的なケアを求められる場面も多いですが、自分も出産を経験したからこそ気持ちがわかることもあればその逆のこともあります。偏った意見にならないよう、寄り添った支援ができるように心がけています。

在学生に向けたメッセージ

今振り返ると大学生活は貴重な学びの場がたくさんあったと感じます。自由になる時間も多く様々なことに挑戦できる環境だったなと思います。後悔しないように、学生生活を楽しんでください！



平成30年度 看護学科卒業

横山 駿さん

白鷹町役場 健康福祉課 勤務
保健師

〔経歴〕

平成31年 3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業
 平成31年 4月 白鷹町役場健康福祉課 勤務
 配属先：福祉係→地域包括支援センター係
 →健康推進係→こども家庭センター係

現在の仕事について

現在の仕事はこども家庭センター係に所属しており、主に母子保健を担当しています。母子健康手帳の交付や乳幼児健診、医療的ケア児等のことなどに携わっています。



山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

県立の大学ということもあり、一般的な医療の知識だけでなく、県内の現状なども絡めた知識を学べたこと。また、県内の様々な医療機関、施設、公的機関で実習できたことで就職を考えた時に具体的なイメージをしやすかったことです。

山形で就職するメリット

仕事をしていく中で対象となる方を知ることとはとても大事になります。文化や訛り、風習などを知っていて関われるということはその人のことを知って介入をする点で大きなメリットであると感じます。また、県内でもプロフェッショナルである大学の恩師の方々など大学でのつながりを仕事に生かしやすいことも強みだと思います。



これまでのキャリアの中で印象に残っていること

様々な事業や支援等で感謝の言葉をいただくときは印象に残ります。また、関わった地域の方から顔と名前を覚えてもらい、公私問わずですが声をかけていただいたときは地域の一員になったことを実感し、印象に残っています。

仕事に当たる上で大切にしていること

その人らしい生活を実現していくために、その人が地域でどのように生活していきたいのかを一番考えることです。そのため、言葉の表面的な部分だけをとらえるのではなく、丁寧に関わり、思いを引き出せるよう心がけています。

在学生に向けたメッセージ

せっかくの学生生活なのでいろんなことにチャレンジをしてみてください！

思わぬところで繋がったり興味が持てたり、いろんな刺激をもらえます。



令和3年度 看護学科卒業

小松 初音さん

山形市立山寺小中学校 勤務
養護教諭

〔経歴〕

令和4年3月 山形県立保健医療大学看護学科 卒業

令和4年4月～令和5年3月

山形大学養護教諭特別科で養護教諭一種免許を取得

令和5年4月 山形市立山寺小中学校で養護教諭として勤務

現在の仕事について

現在は小規模校で養護教諭として勤務しています。保健室で怪我の手当てをしたり具合が悪い児童生徒の対応をしています。時には悩みや心配事を聞くこともあります。

また、保健指導を行い、心身の健康に関することを伝える機会をいただいています。子どもたちの「明日からやってみる!」という言葉の聞いたり、伝えたことを実践している姿を見たりすると、とても嬉しくなり、やりがいを感じます。

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

家族や友人が近くにいる、すぐに相談できる環境があることは、仕事をしていくうえで心強いと思い、山形県内での就職を決めました。また、山形の人・食・自然が好きで、そんな環境の中で働きながら、少しでも地元で貢献できたらと考えました。

山形で就職するメリット

県内には、大学時代にお世話になった方が多くいます。困ったときや相談したいときにすぐに助けてくれる存在が近くにいるので、心強いです。また、仕事の中で医療大の先生方や学生さんとお会いする機会をいただくこともあります。そのようなご縁をいただけることが本当に嬉しく、モチベーションにつながっています。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

養護教諭は、怪我や病気、悩み事など子どもたちが困っていることに対応する場面が多くあります。子どもたちが元気になり笑顔になった時、「ありがとう」と伝えてくれた時に「この仕事をしていてよかった」と感じます。子どもたちからもらったお手紙は、私の心のお守りです。

仕事に当たる上で大切にしていること

一人一人に寄り添ったあたたかい対応を心がけています。子どもたちから笑顔にしてもらうことが多いですが、私からも笑顔届けられたらいいと思っています。

また、救急処置を行う際には、処置の理由を伝えたり、今後の予防策について一緒に考えたりしています。子どもたちには自分の健康を自分自身で守っていく力を身につけてほしいという思いからです。

仕事をしていると、一人で行えることは少ないのだと実感します。誰かに相談しながら、誰かの力を借りながら仕事をするのができています。当たり前だと思わず、感謝の気持ちをもって過ごしていきたいです。

在学生に向けたメッセージ

子どもたちが学校生活を通して成長していく姿は本当に感動しますし、子どもたちの姿から学ぶことができます。子どもたちと一緒に成長することができる素敵な仕事です。養護教諭という仕事に少しでも興味を持ってくれたら嬉しいです。

みなさんが実りのある学生生活を送れるよう、応援しています。



平成18年度 理学療法学科卒業

阿部 志保さん

天童市民病院 勤務

〔経歴〕

平成19年3月 山形県立保健医療大学理学療法学科 卒業
 平成19年4月 天童市民病院リハビリテーション科 入職
 平成23年 3学会合同呼吸療法認定士取得
 平成31年 同病院 理学療法主任
 令和5年 同病院 リハビリテーション科主査

現在の仕事について

理学療法業務の傍ら、リハビリテーション科の代表として運営を行ったり、意見等をまとめて上司へ報告、相談を行ったり、他部門との調整を行ったりしています。

当院は規模の小さい自治体病院であるため、リハビリテーション科は薬剤科、検査科、放射線科、栄養科で組織される診療技術部に所属しています。そのため、リハビリテーション科の直属の上司は全く違う職種の方が務めています。入職した当初は事務局長が直属の上司という時期もありました。

リハビリテーションのことを知らない方が上司であるため、リハビリテーションについて理解してもらうことや、協力者になってもらうことが代表としての一番の仕事になっています。



山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

学生時代、臨床実習でお世話になった病院がきっかけで、職員同士の顔が見える規模の職場で働きたいと考えていました。また地元山形への愛着もあり、叶うのであれば県内で就職できればと考えていました。その一方で己の未熟さに対する不安があり、都市部の総合病院に就職し経験を積んだ方が良いのでは、と県外就職も視野に入れていました。そんな時、偶然市報で理学療法士の募集を見つけ、直感で「これだ!」と後先考えずに応募している自分がいました。今考えると、不安に感じていたことよりも、どんな環境で働きたいかということが一番大切だったようです。

山形で就職するメリット

住み慣れた環境で仕事が始められる、ということが一番のメリットだと感じています。就職直後は新しい環境での挑戦が始まるため、ストレスが溜まりやすい状況です。住み慣れた環境では相談したり助けてくれたりする人がすぐ近くにいるため、非常に心強いです。また県内にいると医療大卒の方に出会う機会も多く、先輩後輩がまわりにたくさんいると知るだけで不思議と安心を感じます。そして皆さんご存じのとおり、山形は自然豊かで食べ物おいしいです。都会的な刺激はないけれど、心身をリフレッシュするには最適な環境だと思っています。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

私にとって最も印象に残っていることは、リハビリテーション科を立ち上げるという貴重な経験をさせてもらったことです。新卒の自分が立ち上げを行うことなど、全く想像していませんでした。一人職場であったため、リハビリテーションについて相談出来る相手が職場にいませんでした。そのため終業後に大学の教授の

もとに通って相談したり、3ヶ月間他の病院へ研修に行かせて頂きリハビリテーションの技術や運営等を学んだりとたくさんの方々にお世話になりました。お陰でなんとかハード面は整えることが出来ましたが、最も大変だったのは職場での他部門との関係性構築でした。既存の流れでうまく稼働しているところに新しい事を取り入れようとすると、なかなか受け入れてもらえない、というのが現実で、苦しい事もたくさんありました。そこで始めたのが職員の顔と名前を覚えて、自分から積極的にコミュニケーションを取ることでした。特別な事ではありませんが、行動を起こしたことで不思議と受け入れてもらえなかった事案も受け入れてもらえるようになりました。お互いに顔の知れた関係になれたこと、相手の立場を理解して交渉できるようになったことが大きな要因かなと思っています。

この時築いた関係性は現在も続いており、今の自分の助けとなってくれています。

仕事に当たる上で大切にしていること

「やってみせ、言って聞かせてさせてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」という山本五十六の有名な言葉があります。患者様に対してはもちろんのこと、職場の同僚に対しても同じことが言えると思います。私一人の力ではどうしようもできないことがたくさんあります。一つのことを成し遂げるために周りの人の協力が不可欠です。この人になら協力したい、信頼できると思ってもらえるよう、自分の仕事は真摯に取り組むよう心掛けています。

在学生に向けたメッセージ

勢いで入職し、苦勞もたくさんしましたが、現在は人に恵まれ、充実した日々を過ごしています。また私が入職した頃に比べると、オンラインで受けられる学会や研修会が増え、山形で働いていても自己研鑽しやすくなった、都市部と地方の学習機会の格差は少なくなってきたと感じています。

今後山形で働く仲間がまた増えることを楽しみにしています。



平成22年度 理学療法学科卒業

黒坂 浩平さん

山形県立新庄病院 勤務

〔経歴〕

平成23年3月 山形県立保健医療大学理学療法学科 卒業

平成23年4月 篠田好生会篠田総合病院 入職

平成27年4月 山形県立新庄病院 入職

〔取得資格〕

認定理学療法士（循環）

心臓リハビリテーション指導士

3学会合同呼吸療法認定士

現在の仕事について

現在は県職員として山形県立新庄病院に勤めており、入院・外来の理学療法業務を中心に行っています。介入領域は整形外科や内部障害領域を中心に脳血管疾患や小児リハビリテーションも担当しております。医師や看護師、社会福祉士といった院内の他のスタッフと連携・協力しながら、患者さんの回復と社会復帰を目指して日々奮闘しています。また理学療法業務に加えて、リハビリテーション部の運営やスタッフの担当配置といった部署管理も担当しております。その他にも、地域の中高生に理学療法のことを知ってもらうための講話を行うことや、高齢者に介護予防についてお話しする機会もあります。

山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

自分が育った地元山形県内に就職したいという思いが一番だと思います。山形に家族や友人が多いことも決め手の一つになったかと思います。

山形で就職するメリット

地域を支えているという実感があるのでやりがいを感じます。最上地域は医療資源が少ない分、一人の理学療法士ができる仕事はとても多いです。それ故に県内の理学療法士同士のつながりは強く、お互い顔の見える関係で協力しながら仕事をしていると感じます。

また個人的には自然豊かで土地も広く、アウトドアや子育てなどに最適な地域だと思います。人柄の良さも山形の県民性かと思っています。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

私が担当した患者さんが、退院後地域で活躍している姿を見たことです。入院中リハビリをしていた時とは想像もつかないぐらい、生き生きとしていました。理学療法士の介入によって、その人の可能性が大きく広がっていくことを感じました。しかし介入しても思うように回復していかなかった方も何人も経験しています。関わった方が少しでも良くなるように、自分自身も日々成長していきたいと感じています。

仕事に当たる上で大切にしていること

「患者さん目線で考える」「もっといい方法はないか常に考える」ことです。患者さんの多くは、突然の病気や怪我で、今まで普通に生活できていたことや、大切にしてきたことができなくなり、心身ともにとっても傷ついています。そんな患者さんの気持ちを理解することは治療の第一歩だと思います。患者さんの気持ちに寄り添い、より良くなるように常に考え続ける事を心掛けています。

在学生に向けたメッセージ

ぜひ自分が挑戦したいことを自由に取り組みでみてください。学生時代に経験したことは、どんなことでも必ず将来に生きてくると思います。卒業後皆様の中から一緒に山形を支える仲間がたくさんいたら私もうれしいです。



平成15年度 理学療法学科卒業

山口 智史さん

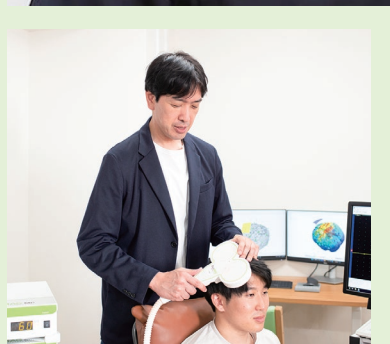
京都大学 教授

〔経歴〕

平成16年3月 山形県立保健医療大学理学療法学科 卒業
 平成16年4月～平成19年3月 慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター 入職
 平成19年4月 慶應義塾大学大学院修士課程 医科学専攻 入学
 平成21年3月 慶應義塾大学大学院修士課程 医科学専攻 修了
 平成19年4月～平成22年3月 東京湾岸リハビリテーション病院 入職
 平成21年4月 慶應義塾大学大学院博士課程 医学専攻 入学
 平成25年3月 慶應義塾大学大学院博士課程 医学専攻 修了
 平成22年4月～平成25年3月 日本学術振興会 特別研究員DC1
 平成25年4月～平成29年3月 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 特任助教
 平成28年9月～平成30年7月 日本学術振興会 海外特別研究員
 平成28年9月～平成30年7月 University of Copenhagen 客員研究員
 平成29年4月～令和2年3月 山形県立保健医療大学理学療法学科 准教授
 令和2年4月～令和6年3月 順天堂大学理学療法学科 先任准教授
 令和6年4月～ 京都大学大学院先端理学療法学講座 教授

現在の仕事について

京都大学においてニューロリハビリテーション研究室を主宰し、運動障害（dysmobility：うごけなくなる）からの回復と日常生活能力を最大限に向上させることを目的とした研究に取り組んでいます。具体的には、神経生理学的手法による病態評価、さらにニューロモデュレーション（電気・磁気による神経調節）や運動療法による神経可塑性と運動学習を促す治療法の開発、その効果と機序の解明です。また、理学療法学の臨床・研究・教育を先導できる人材の育成に注力しています。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

すべての出会いと行動が、私のキャリアの礎です。そのなかでも、学部生のときの講義で電気刺激療法に興味を持ったことが、現在のキャリアの契機になりました。実際に使用している臨床施設を見学したいと教員に相談し、紹介いただいたのが慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターでした。卒業後に、この施設に就職し、多くの方々から臨床と研究を学べたことがキャリアで重要でした。

みなさんも、何気なく受けている講義の1つが、自分のキャリアを大きく変えるかもしれません。大学では多くのことに興味を持って、学んでいって欲しいです。

仕事に当たる上で大切にしていること

2つの事を大切にしています。1つ目は、『来るもの拒まず去る者追わず』です。人と向き合う時に、先入観を持たずに、相手を理解する姿勢を心がけています。一方で、相互に向き合うことで相容れないこともあるので、自分の意見を強要しない姿勢でいたいと考えています。2つ目は、『物事を俯瞰的、客観的に見る』です。自分の言動や行動を含めてすべての事柄を、立ち止まり広い視野を持って客観視するようにしています。

現在の山形県との関わり

山形県立保健医療大学の客員教授として、理学療法学科と作業療法学科の教員の先生方と一緒に研究活動に取り組んでいます。ただ主に研究活動のみの関わりのため、それ以外でも何かしらの形で、山形県に関わっていかれたらと考えています。

在学生に向けたメッセージ

多くの人は、自分が障がいを持ち、イメージしていた人生とは異なる生活を送ることを想像していません。しかし、私たち医療職に関わる患者さんは、障がいを持つことで、それまでとは異なる人生を歩んでいくことになります。この歩みに、私たち医療職に関わることで、その後の人生に大きな影響を与えられる、または、与えてしまう可能性があります。

学生の皆さんには、医療職としての責任と誇りを持つとともに、自分の考えや行動が相手や自分にとって本当に良いことなのか、常に疑問を持つ視点や、俯瞰的に見るための広い視野を養い、自ら判断する力を培って欲しいです。そのためにも、学生生活を楽しみながら、いろいろな事に興味を持ち、行動することで、たくさんの経験を積んでもらいたいです。

最後に、大学の先輩として、みなさんのことを見守り応援しています。困ったことがあれば、私も含めてたくさんの先輩がいるので頼ってください！



平成18年度 理学療法学科卒業

小宅 一彰さん

信州大学 准教授

〔経歴〕

平成19年3月 山形県立保健医療大学保健医療学部理学療法学科卒業
 平成19年4月～平成21年2月 介護老人保健施設さくらパレス 非常勤理学療法士
 平成19年4月 山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科理学療法学分野 入学
 平成21年3月 山形県立保健医療大学大学院保健医療学研究科理学療法学分野 修了 修士（理学療法）
 平成21年4月～平成28年3月 東京湾岸リハビリテーション病院 理学療法士（平成27年4月より理学療法科主任）
 平成26年4月 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻 入学
 平成29年3月 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻 修了 博士（保健学）
 平成28年4月～平成29年3月 日本学術振興会特別研究員DC2
 平成29年4月～平成31年3月 国際医療福祉大学成田保健医療学部理学療法学科 助教
 平成31年4月～ 信州大学医学部保健学科理学療法専攻 助教
 令和5年10月～ 信州大学医学部保健学科理学療法専攻 准教授

現在の仕事について

大学教員として、教育・研究・大学運営に従事しています。学部では神経疾患の理学療法に関する授業や臨床実習の調整を主に担当し、大学院では姿勢変化や運動に対する循環応答、リハビリテーションにおける動機づけに関する研究指導を行っています。また、理学療法士として附属病院や回復期リハビリテーション病院での臨床業務に携わる傍ら、日本神経理学療法学会や長野県理学療法士会での活動にも取り組んでいます。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

これまでのキャリア形成において、最も重要だったことは、千葉県にある東京湾岸リハビリテーション病院での勤務です。学会でお会いした先輩の紹介で就職することになり、大学院修士課程を修了後から7年間勤務しました。回復期病院である同院では、患者さんの日常生活活動の再獲得とご自宅への退院を支援するため、24時間の生活を考慮したリハビリテーションプログラムの設計や多職種連携など、戦略的なリハビリテーションの実践方法を学ばせていただきました。ここでの臨床経験から、廃用症候群の予防・治療やリハビリテーションに対する患者さんの動機づけの重要性を強く認識し、現在の研究テーマの礎となっています。また、研究環境も充実していたおかげで臨床研究のノウハウも学ぶことができ、臨床業務と並行して大学院博士後期課程への進学も実現できました。ここでの経験や先生方との出会いは、現在のキャリア形成に大きく影響しています。その後、日本学術振興会特別研究員への採用を機に退職しましたが、今でも共同研究機関としての連携を継続しています。

仕事に当たる上で大切にしていること

教育の仕事において、私はリハビリテーションと教育は同じであると考えています。すなわち、リハビリテーションでは患者さんの主体的な治療参加や努力が不可欠であるように、教育では学生が主体的に授業に参加し努力できる環境づくりが大切です。教員から学生への一方的な講義は最小限に抑え、グループワークや演習を中心とした学生が自ら学べる・学びたくなる授業設計にしています。

研究では、未解明の課題に挑戦する姿勢が求められます。私の場合、主な専門は脳卒中後の理学療法ですが、臨床的に重要でありながらリハビリテーション分野では研究が十分でない「起立時の血圧調節機能」や「患者さんの動機づけを高める方法」に注目して研究しています。現在は研究フィールドを広げ、骨折後の理学療法、高齢者の介護予防、大学生の健康管理まで視野に入れて取り組んでいます。また、理学療法の診療に役立てることを目指して研究する姿勢はとても重要なのですが、単に評価基準を作ったり治療効果を比較したりするだけでなく、人間の身体や心の本質的なメカニズムの解明を大切にしています。

現在の山形県との関わり

妻（本学作業療法学科の5期生です）の実家が山形県の庄内町にあるため、夏季休暇中に帰省で訪れています。残念ながら母校は帰省の際に高速道路から眺めるだけの状況です。今後機会があれば、授業などで訪問させていただきたいです。

在学生に向けたメッセージ

私が学生だった頃と比べ、社会は大きく変化し、理学療法士の活躍の場も格段に広がっています。現在の皆さんは目の前の課題をこなすのに精一杯かもしれませんが、ぜひ「理学療法を学んだ専門家として、どのように社会に貢献したいのか」を真剣に考えていただきたいと思います。そして、その理想の実現に向けて、今何をすべきなのか、これから何をしなければいけないのかを考えながら行動してください。皆さんのこれからのご活躍を心より期待しています。

平成21年度 作業療法学科卒業

川田 智尋さん

おやま整形外科クリニック 勤務

【経歴】

平成22年3月 山形県立保健医療大学作業療法学科 卒業
 平成22年4月 在宅リハビリ看護ステーションつばさ 入職
 平成26年10月 在宅リハビリ看護ステーションつばさ天童サテライト 勤務
 平成31年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程作業療法学分野 入学
 令和3年3月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程作業療法学分野 修了
 令和3年4月 山形県立保健医療大学大学院博士後期課程作業療法学分野 入学
 令和5年11月 おやま整形外科クリニック 入職



現在の仕事について

現在、私が勤務している「おやま整形外科クリニック」はリハビリテーションを中心とした整形外科診療を提供するクリニックです。医師の診断をもとにリハビリテーションの指示があり、外来でのリハビリテーションを実施しております。

また、クリニックで運営する介護保険サービスである通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにも従事しています。



山形県内に就職した理由と就職を決める際に考えたこと

私は訪問リハビリテーションの分野に興味があったため、山形県内で訪問リハビリテーションを実施している就職先を探しました。当初は訪問リハビリテーションの分野では新卒での求人が少なかったですが、そのような中、求人があり内定をいただけたのが「在宅リハビリ看護ステーションつばさ」という訪問看護ステーションでした。リハビリテーションに力を入れている訪問看護ステーションだったという点も決め手のひとつでした。

山形で就職するメリット

私の場合は生まれも育ちも山形ですので、住み慣れた地域で働けるという安心感があります。県内出身の方でなくとも、母校の同級生や先輩や後輩の皆さまも県内で働いている方が多く、何か困ったときに頼れるのも心強く感じます。また、地域に根差したリハビリテーションを実践したいと考えるときに、地域を知っているということはとても重要なことです。母校のある地域に少しでも貢献したいと思う方は、ぜひ山形県に就職していただきたいです。

これまでのキャリアの中で印象に残っていること

私は訪問リハビリテーションという分野から作業療法士としてのキャリアをスタートしました。新社会人で右も左もわからない状態から、諸先輩方より訪問リハビリテーションの魅力を教えていただき、育てていただきました。先輩方に育てていただいた

分、今度は自分が感じるリハビリテーションの魅力を後世に伝えていきたいと感じます。また、やりがい共有できる仲間が増えることで、山形県のリハビリテーションの質も上がっていくと考えます。

仕事に当たる上で大切にしていること

仕事をしていくうえで、仕事ができる機会があればなるべくチャレンジするように心がけています。自分にとってハードルが高い仕事でも、その仕事を自分に与えてもらったことには理由があるはずで、それを履き違えないように注意が必要だと思います。責任を持って仕事をやり遂げるために精一杯準備していく過程も意義があることだと感じますし、そこから次につながる仕事もあります。新たな仕事をしていく中で人との繋がりも増え、自分の視野が広がっていくのも自分のモチベーションになっていきます。

在学生に向けたメッセージ

就職先を考える際に悩まれると思いますが、自分のやってみたいこと、興味の強いことを、まずやってみるのはいかがでしょうか？実際にやってみてわかることはたくさんあります。理想とはちょっと違う、現実を知ることが大事です。そのうえで自分にできることがきっとあるはずです。現場で困ったときには、頼れる先輩方が山形県にはたくさんいます。ぜひ皆さんと一緒に山形県を盛り上げていきましょう！



平成17年度 作業療法学科卒業

外川 佑さん

山形県立保健医療大学 教授

【経歴】

平成18年3月 山形県立保健医療大学作業療法学科 卒業
 平成18年4月～平成20年3月 敬愛会 尾花沢病院 入職
 平成18年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程 作業療法学分野 入学
 平成20年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程 作業療法学分野 修了
 平成20年4月～平成25年3月 愛広会 新潟リハビリテーション病院 入職
 平成25年4月～ 新潟医療福祉大学 作業療法学科 助手
 平成27年4月～ 新潟医療福祉大学 作業療法学科 助教
 平成27年4月 筑波大学大学院システム情報工学研究科 リスク工学専攻 入学
 平成30年9月 筑波大学大学院システム情報工学研究科 リスク工学専攻 修了
 平成31年4月～令和4年3月 新潟医療福祉大学 作業療法学科 講師
 令和4年4月～ 山形県立保健医療大学作業療法学科 准教授
 令和6年4月～ 山形県立保健医療大学作業療法学科 教授

山形県内に就職した理由と
就職を決める際に考えたこと

私は一度山形県を離れ、新潟県での臨床経験を経て教員になる道を選びました。その後、母校に教員として戻った最大の理由は、「母校を盛り上げたい」という思いでした。

山形で学んだ経験が私のキャリアの基盤となり、今の自分を作ってくれたと感じており、その恩返しがしたいと強く思ったからです。また、地域の医療や作業療法士の育成に携わり、これまでのキャリアで培ったスキルを活かして、山形の医療や教育に少しでも貢献したいと考えました。

山形で就職するメリット

一度県外で生活したからこそ、山形の魅力を改めて実感しました。自然が豊かで四季折々の美しい景色を楽しめるだけでなく、食べ物も新鮮で美味しく、生活環境が整った過ごしやすい街です。また、12歳と4歳の娘がいますが、自然豊かな公園や充実した遊具のおかげで、子どもたちも楽しく過ごせています。さらに、山形では地域の人々との温かいつながりを感じる場面が多く、子育てや家庭との両立がしやすいと感じています。

これまでのキャリアの中で
印象に残っていること

大学院生時代に山形県内の病院で非常勤勤務をしていた際、医療職の皆様や対象者の皆様から多くを学びました。その際、山形県民の親身で温かい人柄に触れた経験は、今でも忘れられません。また、COVID-19の流行以降、人と人との繋がりの大切さが再認

識されていますが、それを山形では肌で実感できる場面が多いと感じます。特に、患者さんや同僚と一緒に問題解決に取り組んだ経験は、私のキャリアにおいて大きな財産です。

仕事に当たる上で大切にしていること

仕事への姿勢は年齢やキャリアの進展とともに変わると感じています。今年40歳を迎えましたが、20代や30代の頃とは違い、「自分一人で抱え込むのではなく、同僚やチームメンバーに仕事を任せる」という姿勢を意識するようになりました。また、私が学部に入學した際、学長から紹介されたJ.F.ケネディ大統領の演説が今でも心に残っています。「アメリカがあなたに何をしてくれるかを問うのではなく、あなた自身がアメリカのために何ができるかを問うてほしい」という言葉を自分に置き換え、日々「山形県や大学のために自分が何をできるか」を自問自答しています。



現在の仕事について

学部では高齢期作業療法と高次脳機能障がいに関する作業療法の講義を担当しています。また、大学院では、自動車運転を含む地域移動に対する作業療法について大学院生指導を行っています。具体的には、脳卒中の患者様や高齢者の自動車運転再開や地域移動の支援に関する研究指導をしています。さらに、山形県内外の臨床現場の作業療法士や他職種と協力しながら共同研究を進めるとともに、現場の支援にも携わっています。昨年からは、山形市の社会福祉協議会と連携し、高齢者のためのスマホ講座にも参画し始めており、学問的知見と現場の課題解決をつなげることを目指しています。



在学生に向けたメッセージ

COVID-19の流行により社会は大きく変化し、特にZoomなどのオンラインツールが普及したことで、山形にいなながらも全国、さらには世界の知識や技術にアクセスできる時代になりました。これは、地方にいるメリットを最大限に活かしながら、最先端を目指す絶好の機会でもあります。さらに、山形県は日本の中でも高齢化率が高く、地域医療の最前線に位置しているといえます。そのため、地域に根差しながらも、全国的な課題を解決する仕事ができる場です。山形の豊かな自然や生活環境の中で、自分を成長させ、地域医療の発展に貢献する。そんな働き方をぜひ目指してみてください。

学生時代にやっておくべきこと

学生時代は、大学というコミュニティの中だけでなく、外の世界に目を向ける絶好の機会でもあります。本を読むことで新たな価値観に触れたり、国際交流やボランティアを通じて多様な文化や人々との出会いを楽しんでください。アルバイトでは、社会の仕組みを学び、自分の可能性を広げる経験が得られるでしょう。また、恋愛も人間関係を深く学ぶ貴重な経験です。他者と向き合いながら、広い視野で物事を捉えられる力を育ててほしいと思います。学生時代に得た経験や失敗は、必ず将来の糧となります。挑戦を楽しんでください。





平成21年度 作業療学科卒業
平成23年度 大学院博士前期課程 作業療学分野 修了

仁藤 充洋 さん

山形県立保健医療大学 教授

【経歴】

平成22年3月 山形県立保健医療大学作業療学科 卒業
平成22年4月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
作業療学分野 入学
平成24年3月 山形県立保健医療大学大学院博士前期課程
作業療学分野 修了
平成24年4月 山形大学大学院医学系研究科生命環境医科学専攻
博士後期課程 入学
平成27年3月 山形大学大学院医学系研究科生命環境医科学専攻
博士後期課程 修了
平成26年4月 山形大学医学部医学科解剖学第一（形態構造医学）講座 助教
令和3年4月 山形大学医学部 学内講師
令和4年10月 Department of Physical Medicine and Rehabilitation,
Northwestern University, Research Scholar
令和5年4月 山形県立保健医療大学保健医療学部作業療学科 准教授
令和5年9月 山形県立保健医療大学保健医療学部作業療学科 教授

現在の仕事について

大学教員として、主に人体解剖学と解剖実習を担当しています。研究は、脳や脊髄などが筋を動かす仕組みについて解明するためにヒトを対象とした研究を行っています。また、神経疾患後の運動機能の向上を促進するリハビリテーション法の開発を目指した研究にも取り組んでいます。これらを通して学部生や大学院生の指導に従事しています。

山形県内に就職した理由と 就職を決める際に考えたこと

母校である山形県立保健医療大学は、研究設備が充実し、リハビリテーションの向上を目指すモチベーションの高い学生が多く在籍しているため、研究に専念できる環境が整っていると考えています。加えて、本学を卒業した先輩や後輩が、近隣の病院に多く在籍しているため、臨床現場での研究を進めるための支援が得られる環境が整っていると感じています。これらの環境を最大限に活用して、大学卒業後もリサーチマインドを持った療法士・看護師を育成していきたいと考え、本学に就職しました。

山形で就職するメリット

大学卒業後も自己研鑽できる環境が整っていることが大きなメリットだと考えています。私が学部生の頃、将来作業療法士として働く際に臨床の疑問を解決するために研究手法を身に着けることが必須であると感じて大学院に進学しました。そして先生方に指導を受けながら研究活動を始めました。臨床現場で生じた疑問について、最先端の知識や技術を持つ教員に気軽に相談でき、指導を受けられる環境は非常に魅力的だと考えています。また、大学教員とともに研究に取り組むことで、一人では思いつかないような発想や研究手法、知識を得ることができ、プレゼンテーション方法や論文の書き方など多くのことを学ぶ機会が得られます。加えて、臨床現場では手に入り難い研究機器を用いて病院で研究を進めたり、大学内で研究活動を行うことも可能となるため、卒業後もこの環境を積極的に活用して欲しいと考えています。

これまでのキャリアの中で 印象に残っていること

米国シカゴに研究留学した経験です。決して英語が得意ではない（特に話すことが困難な）私にとって学部生の頃には考えもしなかった経験でした。大学院で実施した研究を国際学会で発表する機会に恵まれ、その際に、論文でよく見かける研究者と直接会って話す機会があったことは新鮮でした。職場の同僚や共同研究者らが海外留学する姿を間近で見たり、研究留学中の話を伺ったことで留学への憧れを持つようになりました。留学先の教授に自ら連絡して、オンラインでのミーティングや留学手続きを経て、留学が実現し、最先端の研究に携わることができたことは、非常に貴重な経験であったと感じています。





仕事に当たる上で大切にしていること

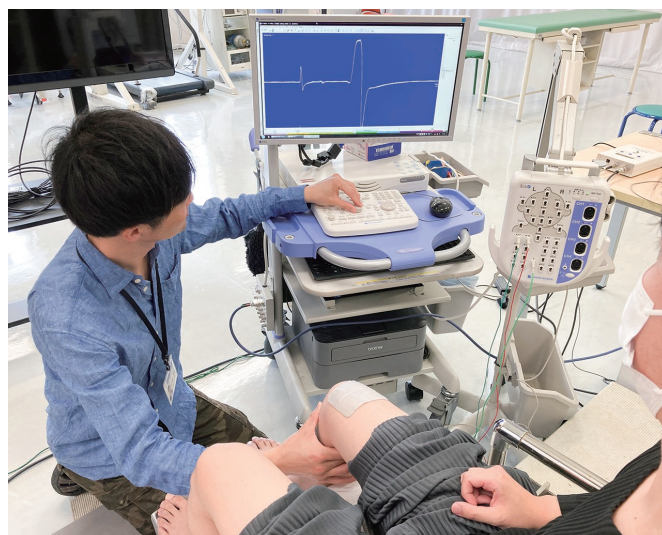
リハビリテーション科学は発展途上にある学問です。本学卒業後、理学療法・作業療法のみならず様々な分野からリハビリテーションを発展させようとする研究者や臨床家がいることを目の当たりにしました。発展途上の学問であるからこそ、広い視野を持って教育や研究に従事することの大切さを学びました。この能力を養うために、学会発表や論文執筆などの活動を通して、自分の知識を日々更新し、広い視野を身に着けるように努めています。

在学生に向けたメッセージ

自分が行うリハビリテーション・看護が最も良い方法なのか、他にも有効な方法はないのかなど、広い視野を持って対象者に関わることでできる療法士や看護師になってもらいたいと考えています。また、少しでも良いリハビリテーション・看護を提供できるよう、卒業後も継続して探求心と向上心を持ち、自己研鑽を続けて欲しいと願っています。これらができる環境に身を置くことで、自身の臨床力を高めることにつながり、リハビリテーションや看護の質が向上することを期待しています。

学生時代にやっておくべきこと

大学での講義を真剣に取り組むことはもちろん大切ですが、サークル活動や余暇活動など、さまざまな経験してもらいたいと思います。大学生活で得た経験や仲間との関係は一生の財産になると確信しています。また、何事にも自分で限界を決めずに積極的にチャレンジして、自身の知識や技術を高めて欲しいと考えています。そうすることで、将来的に思いもよらない経験ができるかもしれません。本学には海外の大学との交流機会もあるため、これを積極的に活用して価値観を広げ、より良いキャリアを築いてもらいたいと願っています。



平成31年度
大学院博士後期課程作業療法学分野 修了

花田 恵介さん

四條畷学園大学 教授

【経歴】

平成17年3月 広島大学医学部保健学科作業療法学専攻 卒業
平成17年4月 兵庫医科大学病院 入職
平成25年4月 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所博士前期課程 入学
平成27年3月 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所博士前期課程 修了
平成29年4月 穂翔会村田病院 入職
令和3年3月 錦秀会阪和記念病院 入職（作業療法士、主任）
平成29年4月～ 大阪府立大学総合リハビリテーション学類
（現 大阪公立大学医学部リハビリテーション学科）非常勤講師
平成29年4月 山形県立保健医療大学大学院博士後期課程作業療法学分野 入学
令和2年3月 山形県立保健医療大学大学院博士後期課程作業療法学分野 修了
令和2年4月～ 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所
（現 大阪公立大学大学院総合リハビリテーション学科）客員研究員
令和5年4月～ 四條畷学園大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 教授

現在の仕事について

大阪府東部にある四條畷学園大学という作業療法士養成校の教授として学生教育に携わってから2年が経とうとしています。それまでの18年間は臨床現場に勤めていました。今も週に1度は臨床現場に足を運び、患者さんとの関わりが途切れないようにしています。大学の所在地である大東市は昔から行政がリハビリテーションに力を入れていた自治体ですので、本学の学生が障がい福祉活動やボランティアに積極参加できるよう、地域保健を学べる地盤づくりもしています。



これまでのキャリアの中で 印象に残っていること

やはり貴学での学びがとても印象に残っています。大阪と山形は何度も往復しましたが、大学を訪れるたびに意見交換できる大学院生同士のつながりはとても刺激的でした。また、当時の指導教官であった平山和美先生には、メールや電話で何度もご指導をいただきました。明日の臨床をどうしたら良いか、きめ細かに教わる機会をたくさん頂いたことで、私の知識が大きく広がりました。

仕事に当たる上で大切にしていること

クライアント第一の姿勢です。何のための研究なのか？患者さんのためになっているか？を常に自分に問いかけて、常により良い選択ができるよう想いをめぐらせています。

いまの私にとってのクライアントは、患者さんだけでなく、本学学生や地域住民の皆さまをも含んでいます。いずれの方と関わる際も、相手が何を望んでいるかを思いやり、つねに最善策を与えられるよう心がけています。

現在の山形県との関わり

コロナ禍以降、山形に赴くことが少なくなってしまい寂しく思っています。山形の日本酒を味わうことで、自分の心を癒しています。

在学生に向けたメッセージ

リハビリテーションの本質は、「クライアントの人生に寄り添い、その人らしい生活を支援すること」にあります。単に身体機能を回復させるだけでなく、その人が望む生活を実現するために、どのような支援ができるのかを考えることが重要です。皆さんが学ぶ知識や技術は、そのための手段にすぎません。大切なのは、「その人が何を求めているのか」を理解し、共に考え、支える姿勢です。

また、AIの発展、地域包括ケアの推進、超高齢社会の進行など、私たちがこれから直面する課題は多様化しています。その中で、皆さんには「問い続ける力」と「柔軟に対応する力」が求められます。新しい知識や技術を学び続け、患者さんや地域社会のために自ら考え、行動できる人になってください。私たちの学びは直接、患者さんの喜びにつながります。学べば学ぶほど、患者さんの役に立ちます。こんな幸せな仕事はないと思います。皆さんとともに、私も地域や社会に貢献できる作業療法の可能性を広げていきたいと思っています。

〈編 集〉

山形県立保健医療大学 学生支援委員会（令和6年度）

〈委員長〉 理学療法学科長 鈴木 克彦

〈副委員長〉 看護学科 教授 沼澤 さとみ

〈委員〉	看護学科	准教授	山田 力オル
		助教	渡邊 礼子
		助教	貝野瀬 友希
	理学療法学科	助教	工藤 大輔
	作業療法学科	准教授	森 直樹
事務局	事務局	事務局長	熊谷 岳郎
		事務局次長	原田 彰弘
		教務学生課長	漆山 敬人
		教務学生主査	五十嵐 洋一
		教務学生主査	村川 康郎
		主事	太田 麻水

〈問い合わせ先〉

公立大学法人山形県立保健医療大学 事務局教務学生課

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地

Tel：023-686-6688 Fax：023-686-6674

URL：https://www.yachts.ac.jp/

山形県立保健医療大学
リンク先はこちら





Yamagata Prefectural
University of
Health Sciences

山形県立保健医療大学

Yamagata Prefectural University of Health Sciences